

コープ災害ボランティアネットワークニュース

【第104号】2020年3月
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL：03-3383-7800

防災・減災の知識を身につけ、災害ボランティアとしてのスキルアップを目指したスキルアップ講座第3講は、災害時に一番の問題となるトイレの対処を広く知ってもらうために、オープン講座として参加を呼びかけました。当日はCO災ボの会員と6生協の組合員64人がトイレについて学びました。

報告

1月25日（土）スキルアップ講座【第3講】

災害時の一番の困りごと「ト・イ・レ」を考える



講師の松本 彰人(まつもと あきと)さんは特定非営利活動法人日本トイレ研究所の研究者として、災害用トイレの普及や小学校のトイレ問題、公共トイレの環境改善など様々な問題に取り組まれています。まず、被災者の聴き取りなどの調査結果から実態を知ることができました。日常のトイレとのギャップが大きく、使用を減らすために水を飲むのを控えることで体調を崩しやすく、エコノミッククラス症候群の要因にもなります。そもそも排水設備への影響がわからない自宅や避難所のトイレではなく、備蓄した携帯トイレを被災後すぐに取り付けられるようにしましょう。それにより自宅での避難生活が可能になります。

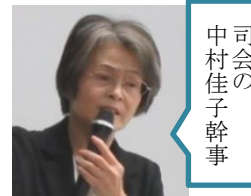
- 凝固剤やシートに水分を吸わせる袋式のトイレは「携帯トイレ」です。
いざという時に混乱しないように、呼称を統一しましょう。(簡易トイレではない)
- 家族でトイレについて話し合っておきましょう。



携帯トイレの使い方が一目でわかるポスター
ホームページからダウンロードできます



《凝固剤の実験》
凝固剤(ペレット)に水を入れると、すぐスポンジ状に固まります。



司会の
中村佳子 幹事

- Q：携帯トイレの使い方と、使用後に廃棄する方法は？
A：自宅の便器にポリ袋をかけ、便座を携帯トイレの袋で覆うようにかけると便座を汚さず使えます。使用後は携帯トイレの袋のみ外し、空気を抜いて容量を減らします。他の可燃ごみとは別に保管し、袋に貼り紙をするなどわかるようにして出しましょう。
- Q：携帯トイレはどれぐらいの備蓄が必要なの？
A：1人5回×7日を目安に備蓄しましょう。
- Q：自宅の庭や公園の土を掘り排泄し埋めてもよいの？
A：感染症の要因になるので避けましょう。
- Q：マンションの排水管に破損がないことをどのように確認する？
A：専門業者による点検が必要になります。現在、学会でマンション居住者による自己点検の考え方を作成しています。日本トイレ研究所も委員として参加していますので、報告書が完成しましたら日本トイレ研究所のホームページでお知らせする予定です。

ホームページを見てみましょう。 トイレ研究所：<https://www.toilet.or.jp/>
国土交通省：<http://www.mlit.go.jp/common/001180224.pdf>

アンケートでは「以前から災害時のトイレは大きな問題なのに、対応方法がわからず心配だった」という動機で参加され、お話を聞いて「食糧と同じように備えます」「さっそく家族分の携帯トイレを購入します」「一度使ってみます」とたくさんの方が気付かれました。具体的でわかりやすく課題や対応が理解でき、「トイレは排泄だけでなく、命を守るためにも大事なもの」ということを学ぶことができました。

12月8日(日)スキルアップ講座【第2講】

報告

まちを歩いて知ろう

～災害がおきたら、あなたはどうか動く?～

中野区防災まち歩きは中野区社会福祉協議会と共催。災害時に中野区で活動するボランティアの養成や、これまでの中野区の講座受講生の定期的なフォローアップなどを目的としています。

当日は「ハピネスホーム・ひなぎくの丘」の会議室に集合し、コープ災害ボランティアネットワークから5生協8人が参加。オリエンテーションの後、3つのルートで2グループずつに分かれスタートしました。終了後はまち歩きを通じて気が付いた点を出し合い、ふりかえりを行いました。

自分が住む街を家族や友人と一緒に散歩しながら、危険な所はないか、消火栓や防火用水、避難場所などをみんなで確認するだけでも防災まち歩きになります。その時に良い点や工夫されている点も見つけることが大事です。ぜひ、チャレンジしてみましよう。



消火器側面に地域の避難所が明記されています。



みやげじま「風の家」 2019「年末おそうじボランティア」

三宅島噴火災害から19年、おそうじボランティアは2005年から15年目になります。三宅島に1人で暮らす高齢の方を中心に、ご自宅の掃除をして交流します。

2019年度は11月22日～24日に実施。コープ災害ボランティアネットワークから5人が参加しました。

【活動】夜に東京竹芝桟橋を出航、早朝5時に三宅島到着。活動拠点の「風の家」で訪問宅の割り当て。お宅に行ってお掃除と交流。次の日は訪問したお宅へご挨拶に再訪問。その後島内を視察し、午後に三宅島を出発しました。

【参加者の感想】

- ・1年ぶりにお会いでき、お元気そうな様子がうれしかったです。昼食はお宅でおいしいお味噌汁や明日葉のお浸しをごちそうになりました。
- ・何度か参加しているので顔見知りが増え、楽しく参加させていただいています。
- ・雨の中の草刈りで疲れは少しありましたが、楽しい1日でした。
- ・島民の皆様の「ありがとう」の言葉とお気持ちに感謝です。

おそうじボランティアの2回目は12月1日から3月に延期しましたが、新型コロナウイルス対応のため中止しました。



往復した橋丸の前で

第18回総会は、2020年7月4日(土)
10時から開催。6月にご案内します。



コラム by 中村佳子幹事

生活協同組合パルシステム東京の組合員中村佳子です。今期は組合員理事をしています。

東京都生協連コープ災害ボランティアネットワークにかかわったのは阪神淡路大震災のあと、小学生と幼稚園の娘を抱え、災害時にどうしたらよいか心配になっていたとき、救急救命講座を生協の人と一緒に受けられるという養成講座を見つけたからです。講座をうけ、気がついたことは普段からのつながりの大切さでした。災害の起きる前につながっていなければ災害が起きてから助け合うことはできないということです。

地域というわけにはいかなかったのですが、その後、新宿区の民間の子育て支援施設でボランティアを始めました。そこで、講座で知ったことを広めるためいくつか企画しました。今行っているのは、月に一度主催している「一汁二菜」というランチ(10組限定で、家庭で食べるようなシンプルな食事をほぼ材料費のみで提供しています)に1年に1回、地震が起きたときに役立つ献立を組み込むというものです。今年はビニール袋で炊いたご飯と豚肉と玉ねぎ、じゃがいもの煮込み、乾物を利用した汁物を防災メニューとしました。サービステーブルには豆知識となるようなクイズも置いています。

育児のプレッシャーで押しつぶされそうになっている若いお母さんが普段の食材をそのまま災害時に応用できるように、また、地震アレルギーを起こさないで災害や備蓄について考えてもらえるように考えながら企画をしています。